

科 目 名	文学国語	単 位 数	3 単位	学 科 ・ 学 年	各科 2 年 A（専門）コース																																																						
使用教科書	高等学校 新編 文学国語	大修館書店	副 教 材 等	常用漢字ダブルクリア	四訂版																																																						
学 習 目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																																																										
学 習 評 価	○ 次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。 <table><tr><td>① 知識・技能</td><td colspan="5">【言葉の特徴や使い方に関する事項】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 【我が国の言語文化に関する事項】 我が国の言語文化の特質について理解を深め、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を含めること。</td></tr><tr><td>② 思考・判断・表現</td><td colspan="5">A 書くこと 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集・整理して表現したいことを明確にすること。また、読み手の関心が得られるよう文章の構成や展開を工夫すること。 B 読むこと 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。</td></tr><tr><td>③ 主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="5">知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけることに向けた粘り強い取り組みを行おうとすること。また、その取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとすること。 生涯にわたって、読書の習慣を身につけ、言語に対する関心を持ち、課題解決への取り組みを行うこと。 言葉を通して他者や社会と関わろうとする努力を怠らないこと。</td></tr><tr><td></td><td>評価方法\観点</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td></td></tr><tr><td></td><td>学習状況の観察</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td>出席状況・授業の準備</td></tr><tr><td></td><td>発表</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td>発表、相互評価を含む</td></tr><tr><td></td><td>提出物</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>授業プリント・感想文・報告文</td></tr><tr><td></td><td>小テスト</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td><td>小テスト（語句・漢字など）</td></tr><tr><td></td><td>定期考査</td><td>◎</td><td>◎</td><td></td><td>年間5回</td></tr></table> ※表中の◎は観点の中でより重視するところです。					① 知識・技能	【言葉の特徴や使い方に関する事項】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 【我が国の言語文化に関する事項】 我が国の言語文化の特質について理解を深め、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を含めること。					② 思考・判断・表現	A 書くこと 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集・整理して表現したいことを明確にすること。また、読み手の関心が得られるよう文章の構成や展開を工夫すること。 B 読むこと 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。					③ 主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけることに向けた粘り強い取り組みを行おうとすること。また、その取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとすること。 生涯にわたって、読書の習慣を身につけ、言語に対する関心を持ち、課題解決への取り組みを行うこと。 言葉を通して他者や社会と関わろうとする努力を怠らないこと。						評価方法\観点	①	②	③			学習状況の観察	○	○	◎	出席状況・授業の準備		発表	○	○	◎	発表、相互評価を含む		提出物	○	○	○	授業プリント・感想文・報告文		小テスト	◎	◎	○	小テスト（語句・漢字など）		定期考査	◎	◎		年間5回
① 知識・技能	【言葉の特徴や使い方に関する事項】 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 【我が国の言語文化に関する事項】 我が国の言語文化の特質について理解を深め、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を含めること。																																																										
② 思考・判断・表現	A 書くこと 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集・整理して表現したいことを明確にすること。また、読み手の関心が得られるよう文章の構成や展開を工夫すること。 B 読むこと 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。																																																										
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけることに向けた粘り強い取り組みを行おうとすること。また、その取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとすること。 生涯にわたって、読書の習慣を身につけ、言語に対する関心を持ち、課題解決への取り組みを行うこと。 言葉を通して他者や社会と関わろうとする努力を怠らないこと。																																																										
	評価方法\観点	①	②	③																																																							
	学習状況の観察	○	○	◎	出席状況・授業の準備																																																						
	発表	○	○	◎	発表、相互評価を含む																																																						
	提出物	○	○	○	授業プリント・感想文・報告文																																																						
	小テスト	◎	◎	○	小テスト（語句・漢字など）																																																						
	定期考査	◎	◎		年間5回																																																						
履 修 上 意 注 意	この科目は3年次に履修する「論理国語」とともに、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す科目です。「読むこと」に加えて文章を「書くこと」やスピーチや討論等の「話すこと」にも取り組みます。また、積極的に活動する態度も評価に含みます。																																																										

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1	4	随想 「少なくとも最後まで歩かなかった」 「そとみとなかみ」	6	・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。	・言葉には想像力や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。
	5	書く ①一言で心をつかもう ②魅力を言葉で表そう	6	・写真やイラストに合ったおもしろい言葉を考える。 ・読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書く。	・「書くこと」において、文学的な文章を書くために選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。
		古典の世界1 「星取り」 「児の飴食ひたること」	6	・話のおもしろさをとらえる。 ・話から得られる教訓をとらえる。	・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・古文を読むことに興味をもち、積極的に読みに慣れようとしている。
	6	詩を味わう 「小景異情」 「永訣の朝」 「コスモス」	6	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。	・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、解釈の多様性について考察している。
		小説 「山月記」	6	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	・「読むこと」において、ほかの作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 ・作品に興味を持ち主人公の心情について理解を深めようとしている。
	7	古典の世界2 「かぐや姫の昇天」 「月やあらぬ」	6	・かぐや姫の心情とその変化を読み取る。 ・男が月を見て感じた心情を読み取る。	・「読むこと」において文章の種類を踏まえて内容や構成などを的確にとらえている。 ・作品に興味を持ち、登場人物の心情を読み取ろうとしている。
2	9	小説 「神去なあなあ日常」 「艶」 「その日東京駅五時二十五分発」	12	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・物語に込められた寓意を読み取り、考えを深める。	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。
	10	随想 「身内ほど厄介なものはない」 「柿」 「ぼくのお母さん」	10	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。
	11	小説 「待合室」 「おぼろ月」	10	・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。 ・登場人物の考え方をとらえ、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。	・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。
	12	短歌・俳句に親しむ 短歌・俳句 〔書く〕 ①川柳を作ろう ②俳句を作ろう	7	・形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わう。 ・印象的に表現するための言葉や表現を工夫する。 ・季語について知り、興味と関心を深める。	・短歌や俳句を読むことに興味を持ち、その形式や表現に注意して作品を味わおうとしている。 ・表現の技法を体系的に理解して使っている。
3	1	古典の世界3 「枕草子」 「徒然草」 「方丈記」	10	・作品に表れている作者の感性をとらえる。	・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・作品に興味を持ち自分と作者を比較して感性をとらえようとしている。
	2	小説 「山椒魚」 「離さない」	10	・登場する生き物たちの性格や心理を読み取る。 ・作品の状況設定を的確にとらえ、寓意性を読み取る。	・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・作品に興味を持ち、そこにある寓意を読み味わおうとしている。
		文学を生み出す 「私たちの黄色」「タイムリミット」 書く ①ショートショートを書こう ②名曲から物語を書こう	10	・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 ・さまざまな作品を参考にして、構成や展開を工夫する。 ・構成・展開や、心情・情景描写などの表現を	・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・作品を創造することに興味をもって取り組もうとしている。